

変わる現場 ASP 情報共有 5

紙に近い運用システム

2005年に設立した現場サポート（鹿児島市）には、まさに社名に起業精神や経営理念が表現されている。福留進一社長は、「わが社の商品の半分はアフターサービス。大切なことは、いかにシステムをきちんと運用してもらうか」と、メリットを感じてもらうか」と強調する。建設現場にはシステム管理者もいない

ければ、ルールを覚えてくれる人もいない。同社は文字どおりの「現場をサポートすることを中心に取り組む」システムベンダーだ。

提供する情報共有システム『現場クラウド for サイボウズ office』は、国土交通省九州地方整備局を始め、近畿、関東の各地整で推奨システムとして選ばれている。グループウェア最大手であるサイボウズの『サイボウズ office』と、同社のソフトがシームレスに結び付き、両方の良さをミックスして建設現場の情報共有を促進している。

システムは、サイボウズ office 9をポータルに、複数の入力方式を備えたスケジュール管理や意見交換も可能な掲示板の運用など使い勝手の良さが

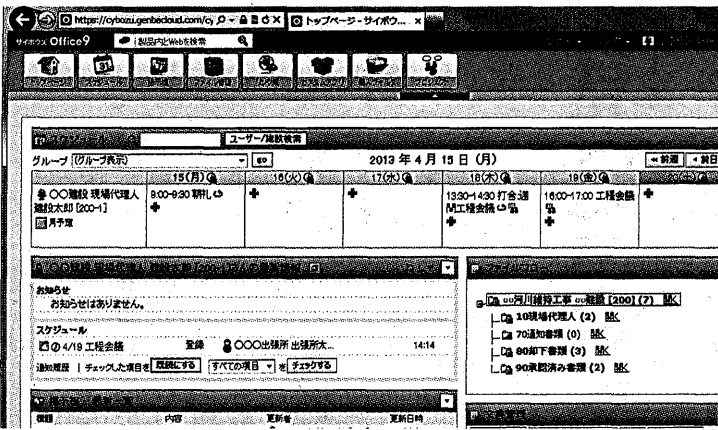
現場サポートの「現場クラウド for サイボウズ office」

特徴。発議書類の作成では、オンライン作業も可能でストレスなく作成できるほか、施工プロセスに見合った書類が選べるナビゲーションシステムやドラッグアンドドロップによる添付ファイルの登録機能などを備える。

心掛けたのは「従来の紙による運用にできるだけ近い感覚で利用できる」ことだ。ワークフロー機能も機の決済箱を移動するイメージで閲覧でき、理解しやすく、柔軟な運用を実現している。文書管理機能には電子納品支援システムや専用のクライアントツールを備え、情報管理と共有化をスムーズに行える。発注者からは書類のやり取り

アフターサービスを徹底

に近くて違和感なく承認処理できると、受注者からは電子納品や電子検査までスムーズに移行できるとの声が多数寄せられて



トップ画面

いる。何よりも受発注者双方から掲示板を介した情報やスケジュール、大容量ファイルの共有化により、「コミュニケーションが促進され、現場の対応がスピード化できた」と評価されている。

地場建設業の西郷組（本社・鹿児島県日置市、西郷進一社長）は、鹿児島県発注の工事で初めて同社のシステムを導入した。本社経営陣もシステムを積極的に利用し、会社ぐるみで効率的な現場管理を実現した。その結果、工事成績評価点85点という高い評価につながった。いまのところ受注者からの提案

だが、鹿児島県を始め自治体の現場でも少しずつ導入が進んでいるという。

一方で、発注者には現場担当者や直接会う機会が減ることを懸念する意見もある。福留社長は「会って話をすることは極めて大切なことだが、日ごろから情報を共有した上で会うことが何倍もコミュニケーションを円滑にする」と密度の違いを指摘する。現場では1日1回手回しをかけて写真をアップし、コメントをいれる。発注者は毎回それを確認する。「この日常的なやり取りを繰り返すことが、いい現場づくりの原点になる」からだ。

「情報共有システムはツールに過ぎない。システムを活用することが何を生み出すのかに視点を移してほしい。当社はそのためサポートに全力で取り組む」。福留社長の目線は建設業全体の活性化に向けられている。

（横倉康弘）

建設通信新聞

【建設ICT】

1. 日経
2. 朝日
3. 毎日
4. 読売
5. 岐阜
6. 中日
7. 産経
8. 静岡
9. 伊勢
10. 中部経済
11. 建通
12. 日刊工業
- ⑬ 建設通信
14. 信濃毎日
15. 日本海事
16. 建設工業

平成25年4月23日（朝）・夕 P 3